

FD NEWS

No.19 2007年 2月26日

摂南大学 FD 委員会
〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8
TEL: 072-839-9106
E-mail: kyomu@ofc.setsunan.ac.jp

摂南大学

薬学部 FD フォーラム報告

FD 委員会委員 薬学部 佐久間信至

2006年9月11日(月) 摂南大学枚方キャンパスにおいて、「6年制薬学部における学習支援の在り方」と題した第1回薬学部FDフォーラムが開催された。日程として後期授業が始まる直前を選んだこと、何よりも枚方で開催されたことが大きかったと思うが(枚方キャンパスから寝屋川キャンパスまで、国道1号線が渋滞していると車で1時間かかることもある)薬学部のほとんどの専任教員及び事務職員が参加した。

今回のFDフォーラムでは学部直結の話題を取り上げる、ということに主眼を置いた。表題の学習支援もさることながら、まず、薬学部が置かれている状況を進学塾の立場から解説していただき、その現状を認識した。演者は(株)進研アドの北野美和氏(営業本部 大阪支社 第二営業部長)に依頼し、2006年度入試結果報告及び2007年度入試動向という視点からご講演いただいた。薬学部は、18歳人口の減少及び薬学部乱立による受験生の取り合いよりも、6年制への移行による志願者数の減少が大きな問題と感じられた。一昨年、昨年、本年の本学の志願者数を見ても明らかなことだが、高等学校の進路指導の現場では、「就学年数が6年となった薬学部に本当に行くのか」と確認しており、志願動機が弱い学生は4年で国家資格が取れる看護学部等へ流れている現状も伝えられた。薬剤師免許取得に6年間の教育が必要であることを高等学校にしっかりと伝えていかなければならないことは当然であるが、職業人としての薬剤師の魅力を早急に向上させなければ現状は改善しない、と私は考える。また、本学に限って言えば、第一志望率が低い、という問題が指摘された。本学と他大学を併願し、複数以上合格した生徒は他大学に進学する、ということであり、本学の低いブランド力を示すデータと認識しなければならない。学部ばかりでなく、全学や法人を挙げて、ブランド力向上に努めることは緊急の課題である、と私は考える。

次に、6年制薬学部における学習支援の在り方を議論する前に、工学部の井上雅彦先生から、工学部・教育センターの現状と展望をご紹介いただいた。入試形態の多様化に伴って発生した基礎学力の格差を、とことん面倒見ることによって改善し、学生の就学を支援されていた。引き続き、薬学部の河野武幸先生が、薬学部・学習支援センターの現状と展望を報告された。薬学部においても、先の基礎学力が十分でない学生は増えてきており、学習支援は緊急の課題との認識であるが、現状、1年生のみを対象としている。学習支援の波及効果等を考えると、上位年次への拡張も必要ではないか、との議論もあった。とはいえ、4年生を対象とした現行の総合薬学演習(薬剤師国家試験に対する集中講義)は究極の学習支援と言えなくもなく、6年制移行に伴い、全体をシステム化することの必要性が感じられた。

以上、今回、学部毎のFDフォーラムが初めて企画されたが、場所もさることながら、学部直結の話題を選択できる、ということもあり、一定の成功を収めた、と認識している。

法学部における授業公開の成果と今後の課題

FD 委員会委員 法学部 三成 美保

今年度、法学部は従来とまったく異なるかたちで授業公開をおこない、一定の成果をおさめることができた。以下、(1)新しい方法の特徴、(2)授業公開の目的と成果、(3)今後の課題についてまとめておきたい。

(1) 新しい方法の特徴

新しい方法の最大の特徴は、「全員参加」である。それは、全員による授業公開、全員による授業聴講の2つを意味する。実施時期として11月下旬の2週間(11月17~30日)を選び、各教員はかならず1つ以上の授業を聴講し、内容や手法の工夫で「よい」と思った点を記名式アンケートで回答してもらうこととした。

(2) 授業公開の目的と成果

[1]目的

今回の授業公開は、2つの目的を持っていた。同僚教員の授業から講義内容や手法について参考になる情報を得ること、授業公開という緊張に自己をさらすことにより自分の授業を自省し、工夫を促すきっかけにすることである。

[2]成果

成果として指摘できるのは、次の3点である。同僚教員がそれぞれに授業を工夫しているという事実を共有することができた。具体的な工夫では参考になる事項が多く、互いに多くの発見があった。

授業公開が教育集団としての学部同僚間の信頼関係を高めるうえで一定の役割を果たした。以上のことから、今回設定した目的は、十分に果たされたと考える。

なお、今回の授業公開の全体的成果は、12月21日の法学部FDフォーラムにおいて報告される予定である。

(3) 今後の課題

今後の課題として、以下の3点を指摘できる。

授業運営上の悩みや問題点を共有する手段として授業公開が効果的かどうかは、なお疑問である。個別授業の手法改善のためには、全体への公開ということではなく、近い専門領域どうしの教員で相互にチェックするなど、別途手段を考える余地があるように思われる。

今回は初回であるために一定の緊張感をもって全員授業公開を実施でき、また多くの発見があったが、次年度以降、同様の効果をあげることができるかどうかは不明である。しかしながら、授業の公開があたりまえのことになるのもまた授業公開の趣旨に即した前進といえよう。

制度の形骸化はかならず起こる。聴講やアンケート回答をおざなりにすませることはいつでも可能である。しかしながら、得るものがある限りは続ける価値がある。授業公開を教員が参加協力する意義がある試みにするのか、それとも、形式的な行事にとどめるのか、すべてはいま各学部の判断に委ねられている。法学部FD委員会としては、今回の実施結果をふまえて、来年度の授業公開をより実のあるものとしていきたい。

以上

2006年度薬学部授業公開報告

FD 委員会委員 薬学部 佐久間信至

2006年度、薬学部では、以下の要領で授業公開を行った。

要領：11月13日(月)~17日(金)の期間中、全授業を公開する。特に選抜した講義については、授

業公開後、担当教員と聴講した教員とで意見交換を行う（担当教員の同意があることを条件に、意見交換会を設ける）。

意見交換会は初めての試みであり、前向きな議論を行うことを原則とした。今回、以下の2講義が選抜されたが、いずれも若手の先生であり、本年度から授業を担当されている。先生の同意のもと、忘れないうちに、ということで、それぞれの授業公開日の夕方、意見交換を行った。以下、両先生が今回の授業公開ならびに意見交換会を通して感じられたことをまとめてくださったので、それを添付し、2006年度薬学部授業公開報告としたい。選抜された講義：

2006年11月13日（月）1&2時限、薬物治療学a、吉岡靖講師

2006年11月16日（木）1&2時限、生理解剖学、倉本助教

吉岡靖先生：

「公開授業の感想」

当日の公開授業には、多くの教員の御参加を頂き、身の引き締まる思いで授業に臨んだ。公開授業後の意見交換会において、授業内容や進行等について改善点を御指摘頂くために、内容および進行方法は普段通りを心がけた。緊張のため、ところどころ言葉に詰まるところもあったが、ほぼ普段通りの授業が出来たのではないかと感じた。しかしながら、授業後、学生に授業の感想を聞いたところ、私が普段より緊張していたのが伝わっている様であった。このことから、授業中の学生の雰囲気は、普段と変わらないものであると感じたが、最後列におられた教員方から見られていることを意識し、学生自体も普段より緊張感を持って授業を受けていたのかもしれないと思った。1限目を終えた段階で、普段よりも学生への問いかけが少ないと感じ、2限目では問いかけを増やすように心がけた。また、1限目の緊張が2限目では緩和されていた。このため、1限目を聴講された先生と2限目を聴講された先生とは、異なった印象を抱かれたのではないかと感じた。

自分がこれまでに授業を受けてきた経験から、理想の授業というのは、学生の興味を引く話を授業の合間に織り交ぜることにより、授業に緩急をつけ、学生の集中力を切らさない授業であると考えている。自分の授業のスキルとして、授業の進行と学生の興味を引く話との切り替え、緩急の切り替え方が上手ではなく、今後そのスキルを向上させる必要があることを、公開授業を行い改めて感じた。このように、公開授業を行うことは、自分の行っている授業を自分自身で見つめ直す良い機会であると感じた。

「意見交換会の感想」

公開授業後の意見交換会では、多くの御意見を頂いた。特に、講師以上の実際に授業を持たれている先生からの御意見が多かった。頂いた御意見のうち、授業の良かった点として、「声の大きさ」や「言葉の明瞭さ」、「大事なことを繰り返し言う点」などがあり、普段心がけて行うようにしていることが評価されたように感じた。一方、「学生に問いかけて考えさせる時間が少ない」、「図を描いて学生にイメージさせることが大事」、「国家試験に出題されるかどうかをはっきりすべきである」、「実際の治療を理解させた上での薬物治療の意義を指導するべきである」などの改善すべき点を御指摘頂いた。学生への問いかけに関しては、常に意識はしているが少ないため、増やして行きたい。また、図に関しても、学生がイメージしやすいよう、図を描くように授業を改善して行きたい。国家試験に出題されるかどうかに関しては、当日の授業範囲の中で過去に国家試験に問われた範囲が非常に狭かったため、公開授業ではほとんどなかったが、常にそのことを意識しており、何が問われるのかも含めた授業を心がけている。実際の治療の問題に関しては、今後、薬物治療以外の治療も積極的に教えることにより、その中での薬物治療の意義が分かるように授業を進行して行きたい。

意見交換会では、授業を行うにあたり悩んでいた「1限目、2限目間での授業の進行速度の調整方法」について、多くの先生にお話をお聞きすることで、「2限目は意識的に間合いを長めに取ることで、時間を調整する」などのお答えを頂き、今後の授業の進行に非常に参考になった。普段様々な授業を行っておられる教員の方々に授業を聴いて頂き、学生とは異なった視点から、御意見をいただける貴重な場を

持つことが出来たことは、非常に有意義であった。本意見交換会で頂いた御意見を参考にし、今後の授業をより魅力ある授業に出来るように心がけたい。

倉本先生：

公開授業は、通常の授業を展開するように心がけた。後ろに控える先生方にはできるだけ気を配らないように通常を意識していたが、それが逆に学生の方に目をやる機会を減らしたかもしれない。その他についてはほぼ通常通りの展開ができたと思う。先生方にはお忙しい中来て頂いているため恐縮であるが、参観して頂き、先生方から厳しい御意見や御指摘を頂き良い機会であったと思う。今後精進していきたいと思う。他学部からの御参加があったことが非常にうれしかった。残念ながらその他学部の先生に於かれては公開授業後に開催された意見交換会にはご出席頂けなかったが、貴重なご意見を残して頂けて非常に有り難く感じた。

私の授業展開に関して意識していることは、分かりやすい授業である事はもちろんであるが、本年度の指導方針は「最後まで多くの学生がついてこられる」授業をめざしている。本年度は私にとっても一年目の講義であることもあるので、とりあえず、復習を多く取り入れるように展開している。公開授業当日は、当日に新たに覚えることもあったが、それまでに少しずつ教授した内容を総合的にまとめる内容の授業であったので、授業後、何人かの学生に当日の授業の理解度を訊いてみた。その結果は、だいたい「いつもと同じ」という意見であったが、中には「今までで一番分かりやすかった」という意見もあった。段階的に難しくなっているはずなのに、この意見は意外で、且つ貴重であった。おそらくその学生は今までの私の授業を良くきいて、とりあえずついて来られているのだと思う。このような学生が増えることを目指してやっていきたい。

その他、気づいた点は、通常静かに私の授業をきいてくれる A-C 組に会話が多く、通常は比較的うるさい D-F 組にはほぼ私語が見あたらないことであった。不思議な現象であった。遅刻は 1 限目と言うこともあり、A-C 組に多いが、当日は非常に多かった。遅刻の数は私の授業に対する興味や、彼らの日々の疲労もしくは気のゆるみを反映すると考えられる。訊けば、後期後半の平日午後は彼らの授業が無いことが多いらしい。寒くなったのもあり、彼らの気の緩みの可能性が大きいのではないかと推察する。ちなみに、全クラスを通じて、教室を出入りする学生がかなり居る。これは先生方の目もあるせいか、公開授業当日はほとんど見られなかった。

以上

F Dフォーラム開催のお知らせ

* 工学部 F Dフォーラム「教育貢献を考える」

内容：工学部教育貢献表彰を通じて

日時：2007年3月12日(月) 15:00~16:00

場所：スカイラウンジ(寝屋川学舎11号館11階)

* 全学 F Dフォーラム「摂南大学における教育・研究の再構築 - 基礎教育の充実をどうはかるか - 」

内容：森本学長講演・シンポジウム・討論・総括

日時：2007年3月16日(金) 14:30~17:50

場所：552教室

引き続き 18:00~19:30 懇親会をスカイラウンジ(11号館11階)にて開催(会費2000円)

F D委員会から

F D委員会の手違いにより F Dニュース第 19 号の発行が遅れて申し訳ありませんでした。

次号の F Dニュース第 20 号は 2007 年 3 月下旬に発行の予定です。